



## 探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和3年  
6月11日  
(金)  
No.1

### ○「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」に向けて

4月から福富小・中学校がスタートし、あっという間の2ヶ月だったのではないのでしょうか？子供たちにとっても、自分たち教師にとっても初めてのことが多く、手探りの中で活動を行ってきました。コロナ禍のため活動が制限される中で、なかなか小中合同の活動を行うことはできていませんが、職員室での交流は順調に進み、職員の一体感は増してきたように感じます。



さて、本校は3年計画で行われる広島県の事業「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」を受けており、今年度はその1年目にあたります。6月3日（木）には、東広島市教育委員会より花岡指導主事に来校していただき、この事業に向けた理論研修を行いました。この事業の趣旨は「PBL (Project Based Learning) を取り入れた、小・中連携型の生活科・総合的な学習の時間の単元を開発、実践すること」です。そして、その成果を近隣の諸学校に発信して、還元していくことにあります。そのために、まずは職員が同じ目標（道標）をもって進んでいく必要があります。花岡指導主事にお話しいただいた内容を、簡単にまとめておきたいと思えます。

### ○求められる資質・能力の変容～劇的に変化する社会 Society5.0～



アメリカ、デューク大学の研究者キャシー・デイビッドソンは、2011年に「今年度、米国の小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に『今は存在しない仕事』に就くだろう。」という予測を発表しました。具体的な数値はどうか分かりませんが、AIの急速な進歩（自動運転システムや自然言語による対話サービスなど）や、youtuberの登場など、変化の激しい時代になってきているなと肌で感じているのではないのでしょうか。

社会の変化に伴い、子供たちに求められる資質・能力は、「熱意や意欲があればいい！」から、「戦略的学習力（先を見通し、学び続ける力）やコミュニケーション力を身につけた即戦力」に変化しています。それに合わせて、「教育の役割」も変化を求められています。

### ○教育の役割の変化～教師主導の一斉授業からプロジェクト型学習へ～

明確な正解の存在しない社会では、答えのない問いに対して粘り強く取り組む姿勢、主体的に考えて協働的に議論し、納得解を生み出す力が求められます。そのため、福富小・中学校では、プロジェクトの遂行を通して、その課題の解決だけでなく、他の場面でも活用することができる汎用的能力の育成を図ることができるPBLを軸とした、探究的な学習の単元開発を行っていかうと考えています。研究の内容は、次のとおりです。

- ①育成を目指す資質・能力を設定し、単元計画を開発・実践する。
- ②育成を目指す資質・能力を評価するためのルーブリックを開発する。
- ③3年間の研究成果を域外に普及するためのリーフレットを作成する。



### ○プロジェクト型学習とは～探求的な学習と課題解決学習との違い～

3つとも構成主義（知識は、各々の目的や価値観によって、事象から多様に構成されるという考え方）の学習方法です。違いを以下の表にまとめます。

プロジェクト型学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの解が存在しない発展性のあるものを扱う。</li> <li>・課題そのものに焦点が当てられない。</li> <li>・実生活、実社会にある問いを扱い、解決策を社会に還元する。</li> </ul>
探求的な学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの探求心に基づく問いを扱う。</li> </ul>
課題解決学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決策を見いだす。</li> <li>・課題の設定に始まる探求の過程を明確にする。</li> </ul>

花岡指導主事に見せていただいた図では、この3つの学習がかなりずれているように描かれていました。しかし実際には、3つの学習はずれている部分は少なく、ほぼ一致するものだと考えてよいようです。ですから、探求的な学習の在り方を研究するという事は、PBLを軸とした研究を行うことと同義であるということになります。

### ○まずは生徒の実態把握から～イメージマップの活用～

地域に根差したプロジェクト型学習を実施するために、まずは子供たちがどの程度この地域・福富町について知っているのか、現状を把握しておく必要があります。そのために、「福富町を中心としたイメージマップを書いてもらいたい」と考えています。6月第3週に実施予定です。ご協力をお願いします。

#### これからの予定

- 6月25日（金）15:00-16:30  
プロジェクトメンバー（以下FIT）のみ  
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
  - 7月5日（月）FITのみ  
第1回研究推進協議会 授業巡回  
広島県義務教育指導課 小坂指導主事来校  
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
  - 7月12日（月）15:00-16:30  
単元の作り方（全体）
  - 8月17日（火）9:00-16:30  
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校  
年間指導計画の検討（グループ・学年別）
  - 9月13日（月）FITのみ  
第2回研究推進協議会  
西部教育事務所 宮田指導主事来校  
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
- ※FIT 構成員（朝倉教頭、岡、八方、飯垣、木本）

#### 先達の言葉

準備10年、  
成功5分。

ロアール・アムンセン（ノルウェー極地探検家）  
これから、3年計画の長い研究が始まります。研究発表は1日で終わりますが、それまでの準備は莫大な労力が必要です。なぜなら、プロジェクト型の学習を行うためには、実際に活動を行う前に、教師による裏側の環境づくりが必要だからです。せっかくだから、楽しんで乗り越えていけるような明るい職員集団でありたいですね。